

共同助成(函館方面遊技業協同組合)

## 「にこにこ子ども食堂」事業

### 地域の子どもや保護者が安心して笑顔で過ごせる居場所を提供するために子ども食堂を毎週開催

地域の中で子どもたちの成長を支援する取り組みとして注目されている「子ども食堂」。そこは単に子どもたちに食事を提供するだけでなく、ボランティアの居場所にもなっており、多世代交流の拠点、生涯学習の場でもある。また、食品ロスの解消やSDGs(持続可能な開発目標)の達成にもつながる。函館で子ども食堂に取り組む団体に話を聞いた。



子ども食堂の開催を告知するチラシ



毎週金曜日に開催している食堂には、多くの親子が訪れる

### 生活保護受給率や母子世帯の割合が高い北海道函館市で4年前から子ども食堂を運営

一般財団法人「北海道国際交流センター」は北海道・函館市に拠点を置き、北海道における人と人との交流を通じて国際相互理解教育の推進と世界の平和に貢献することを目的に活動を続けている団体である。「多様性を共に支え合う社会づくり」を目指し、多岐にわたる事業に取り組んでいるが、現在、その活動は「国際交流」「人材育成／自立支援」「情報発信」の3分野が主体で、例えば留学生ホームステイプログラムの企画運営、在住外国人向けのイベント、市民向け講演会、生活困窮者自立支援、学習支援事業、フリーペーパー発行、函館市青少年研修センターの指定管理などを行っている。

同法人では活動の一環として4年前から子ども食堂を運営しているが、その背景には、函館は生活保護率や母

子家庭世帯が多いことがあるという。平成30年の生活保護率は45.4%と、全国平均の約3倍。また、母子世帯の割合も18.7%と、北海道全体や札幌市の平均よりも高く、約44%の家庭が「家計がぎりぎり」と答えている。そうした状況の中で共働きの家庭が増え、1人で食事をする子どもも増えているのが現状である。

なお、同法人が運営する子ども食堂は当初、その認知度が低かったこともあり、人数が集まったら開催することにしてきたという。しかし、不定期の開催では子どもたちが参加したいと思ったときに参加できない、食材の寄付などの必要な支援も受けられないなどの状況になってしまうため、毎週金曜日だけでも温かい食事を多くの参加者と一緒に楽しく、たくさん食べてもらいたいという願いから、AJOSCの助成を活用し、毎週開催へと踏み切った。

### 毎週金曜日に子ども食堂を実施したほか、一般市民が参加できるセミナーや講演会も

毎週金曜日に開催した子ども食堂には、毎回、親子合わせて15~25名の参加者があったという。これまでと違うことは、子ども食堂に興味を持つ人がかなり増え、食材の寄付を検討している団体や企業、一緒にイベントをしたいという企業、子ども食堂への理解を深めたいという学校の先生方、子ども食堂の調査をしているという高校生、これから子ども食堂を始めたいと考えているグループなどからの問い合わせや見学が多数あった。

また、ボランティアとして手伝う方々が徐々に増えたことも喜びだったという。4~8月までは北海道教育大学函館校の1年生8名が地域課題を自分の肌で感じることを目的に参加した。料理が得意でない学生が主婦歴の長いボランティアにコツを教えてもらいながら一生懸命に取り組んだほか、毎回、子どもたちとの交流レクリエーションも考え、ゲームや手品など試行錯誤しながら様々なことに挑戦し、ま



ボランティアによる調理風景

に多世代交流の場になっていたという。

さらに同法人では、地域の人々に子どもたちの現状を知ってほしい、少しでも子どもの問題に興味を持ってほしいという思いから、食事を提供するだけでなく、子どもも大人も一緒に参加できるようなワークショップ、週末には一般市民も参加できるセミナーや講演会も実施した。「NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ」の湯浅誠理事長の講演会では、子ども食堂や貧困問題に興味のある一般市民約100名が集まった。「今後も子どもたちや保護者、ボランティアさんが気軽に参加できる居場所づくりをしていきたい」と、同法人の島香奈未さんは話す。

### 函館方面遊技業協同組合より

地域の子どもたちを支援する活動に賛同させていただきま。今後も活動の継続と広がりを期待したいと思います。



活動の一環として開催したセミナー「子ども食堂から広がる支援の輪」

助成団体:一般財団法人 北海道国際交流センター

<http://www.hif.or.jp/>



### 子ども食堂に対する認知度が徐々に上がってきました

この度は助成をいただき、ありがとうございます。お陰様で週末には子ども食堂の利用者以外でも参加できる講演会やイベントの実施や外部イベントでの宣伝などができ、認知度が徐々に上がってきました。会場が使用できない日、コロナウイルスの影響で自粛した以外は、毎週金曜日に開催しました。今後も子どもたちへの支援を続けていただけたら幸いです。

一般財団法人 北海道国際交流センター  
企画広報セクション・コーディネーター 島香 奈未さん